

和光市・防災セミナーより

シーアイハイツ和光管理組合 広報委員会

1月25日(土)16時~17時40分、集会棟会議室(AB)にて和光市役所危機管理監による「BOSAI セミナー2020」が開催され、多岐にわたるテーマで講義が行われました。以下の内容はその一部を抜粋したものです。

1. 和光市と「東京湾北部地震」の被害様相

和光市は埼玉県全域に占める市の面積で0.3%、人口では1.1%で小さいと言えますが、防災力の面では比較的強いものがあります。和光市にとって、一番の脅威となる災害は地震です。今後30年以内に発生すると予想されている「東京湾北部地震」の被害規模を想定した和光市の資料によると、広範囲で震度6強の揺れがあり、1981年5月31日以前の旧耐震基準の木造家屋の多くが被害を受けます。シーアイハイツ和光は「鉄骨・鉄筋コンクリート構造」で、すぐに倒壊するリスクは少ないと想定されます。和光市の建物被害としては、全建物の15.4%で全半壊が予想され、ライフライン被害の復旧に要する期間は電力6日、通信14日、都市ガス55日、上水道で3日、下水道で11日となっています。

2. 和光市防災ガイド&ハザードマップの見方

和光市が作成した「防災ガイド&ハザードマップ」(※1)の冊子には自分や家族の防災力(自助)を高めるため、家庭でできる防災の知恵や技がまとめられています。いざという時、自分を救うのは「普段の備え」であり、「ああしておけばよかった」と後悔しないために、この冊子をチェックリスト代わりに利用して、日常生活から自助防災力を高めておくことが

大切です。日常生活での備えだけでなく、「和光市防災・防犯情報メール」(※2)にメールアドレスを事前登録し、避難情報や防災行政無線の内容を自分から情報収集することが大切です。また、災害時の連絡手段として災害用伝言ダイヤル「171」の使い方をあらかじめ確認しておくことで安心です。毎月、1日と15日に無料体験ができます。

3. 団地の地域防災力を向上させるために

地域防災力とは、地域コミュニティの結束力、被災後の復元力(復旧、復興)の強さとも言えます。シーアイハイツ和光は11棟、約1,600戸のビッグコミュニティです。防災組織が震災時に機能するためには、平常時から防災訓練の企画、防災知識の啓発、広報活動、初期消火訓練、必要機材の点検、炊き出し訓練などの役割分担に基づく活動をしておかないと、いざという時に動けません。

今春には、各家庭用の「シーアイハイツ和光震災時行動マニュアル」が全戸配布され、引き続き、防災対策本部用のマニュアルが整備される予定となっています。震災に備える平常時からの行動指針が具体化されていくものと思われます。今後は、震災時行動マニュアルに基づく消防・防災訓練を検討していくことになるでしょう。最後に、緊急時の防災対策本部と各棟の連携体制や理事会が開催できない場合の意思決定と執行基準、応急的な修繕工事の予算措置をどう設定するかなど、マンション管理規約を災害対応型に改正し、防災組織の活動に権限と財政上の根拠を与えていくことが課題となります。

※1 和光市「防災ガイド&ハザードマップ」は、今春の「シーアイハイツ和光震災時行動マニュアル」と同時配布する予定です。和光市ホームページでも閲覧できます。※2「和光市防災・防犯情報メール」への事前登録は、bosai.wako-city@raidan2.ktaiwork.jpに空メールを送信し、登録完了メールから本登録を行います。和光市ホームページからも登録できます。